

「あたり前だと思っていることにも感謝をする」

作：うえの めい

語り：上白石萌歌

父を亡くした去年から、私には「今までよりも大切にしている言葉」があります。「あたり前だと思っていることにも感謝をする」という言葉です。これは父を亡くしたときに、お世話になった看護師さんが言ってくれた言葉でした。

私がこの言葉を大切にしようと思った理由は、父を亡くしてから「父が家族と一緒にいる」ということは、あたり前のことではなかったと気づいたからです。私が四年生になったとき、父は家での介護を望んだため、私たち家族は、家で父の介護をすることになりました。でもその時、私は寝たきりになった父の姿を見て、とてもショックを受け、しばらく寝込んでしまいました。家にはお医者さんや看護師さんが来るようになり、私たち家族の生活は大きく変わってしまいました。このときに、これまでの日常はあたり前ではなかった、と気づいたのです。それでも「父が生きていること」は、あたり前だと思っていました。今から思い返してみると、きっと父は、家族みんなで生活出来ていることがあたり前ではない、と気づいていたことでしょう。だから、いつも、父は今まであたり前のように思っていたことにも、「ありがとう」「ありがとう」と何度も言っていました。家に来る看護師さんも、私が父の介護を手伝っていると、「ありがとう」「えらいね」とすごく誉めてくれました。でも私は少し不思議な気持ちでした。なぜなら、私が父の介護をするのは、あたり前のことだと思っていたからです。今でもその気持ちは変わっていません。でも私の家族や看護師さんたちは、あたり前のことにも感謝をしていました。

父が亡くなってしまったあと、看護師さんが言っていた言葉を聞いて、「なぜ私は、あたり前のことにも感謝する気持ちを、しっかり父に伝えられなかったのだろう」と、とても後悔しました。

私は、この後悔した気持ちを胸に刻み、これからはあたり前のことに対しても、感謝の気持ちをしっかり伝えられる人間になりたいと思います。

家族と一緒にいることにも、食べ物があることにも、

「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたいと思います。

これからも、いつまでも、この気持ちを忘れずに生きていきます。

「お父さん、ありがとう」